

地温を高め 発根促進

これからの時期、果樹では春根の発根が始まることで発芽や開花、展葉緑化など地上部の生育が進みます。この発根に重要となるのが地温です。今回は、地温を高めて発根を促す土壌管理について紹介します。

1. 地温と発根

根の活性が高まってくるのは、平均地温が12~15℃以上になることです。また養水分の吸収に働く吸収根は深さ10cmの層に多く存在しています。

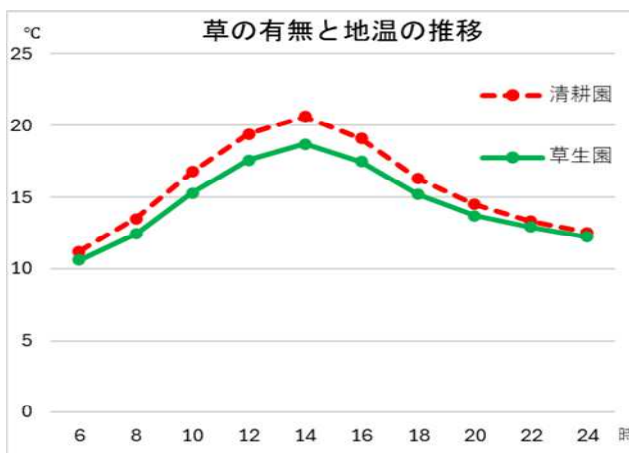
2. 草生園と清耕園

果樹園に行くと草を生やした草生園と生やしていない清耕園を見掛けます。

右図は4月の草生園と清耕園の平均的な圃場の一日の地温（深さ10cm）推移をみたものです。清耕園は平均2℃、最大で3℃地温が高いことが分かります。

同じ地域で栽培していて地上部に生育差がつくのは草の有無が要因の一つに考えられます。

地上部の生育や根の活性化には草を除去し、土壤に太陽光を当て地温の上昇を促すことが大切です。



3. 春草除去の効果と方法

耕起型管理機で耕起すると地温を上げるほか

- ・土中へ酸素が注入できる
 - ・果樹の根も断根することで根が刺激される
- などの効果により、春根が活性化します。

この時、注意したいのが管理機で耕起する深さです。

10cm以上の深さは相当量の根を切り逆効果になります。

3~5cmの表層を軽く起こすだけで十分です。



図-マグホス+管理機で雑草除去した春のナシ園

4. マグホスの施用

耕起と同時にマグホス60kg/10aを施用下さい。土壤環境の好転とマグホスの相乗効果により、根の活性を促し、初期生育のスタートダッシュにつなげて下さい。



多木化学ホームページ URL <https://www.takichem.co.jp/>

アグリサービス室メールアドレス aguri@takichem.co.jp